

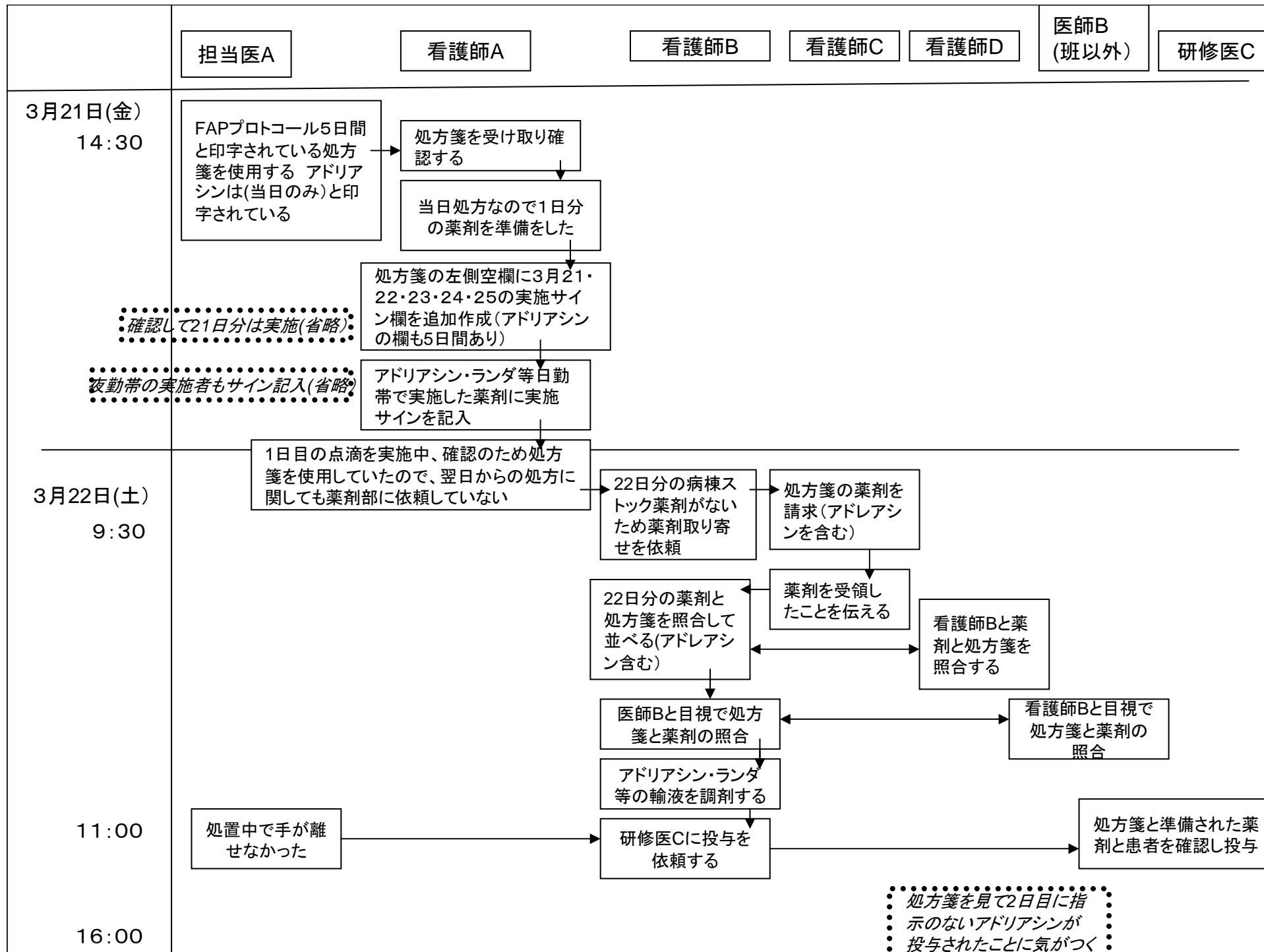


抗がん剤の誤投与

若生 美佐子

当院での注射箋の流れ

- 13時までに薬剤部に注射箋を提出すると翌日施用の個人別セットを行う
 - 時間外分は、臨時の伝票で請求または、病棟ストックより使用（翌日分の注射箋の入力はない）
 - 木曜日以降、定時に間に合わなかった注射箋の薬剤は、病棟ストックより使用
-



受け持ち班制度と各班の化学療法

- 胃・食道、乳腺、肝・胆・膵、大腸の4班
(スタッフDr・ローテーションの助教・研修医)
- 胃: TS-1/CDDP
- 食道: FAP療法
- 乳腺: TC療法、EC療法
- 肝・胆・膵: ジェムザール
- 大腸: FOLFIRI、アバスチン+ FOLFIRI
m-FOLFOX 6、アバスチン+m-FOLFOX 6

Rp	薬品名	1回量	回数/ 日	処方期間	投与方法	調製者サイン		実施者サイン	
						21	22	21	22
①	ソリタT3号 アリナミンF(50mg) フラッド(20mg) ピドキサール(30mg) (冷)ビスコリン(500mg) プリンペラン10mg 5-FU(250mg)	500ml 1A 1A 1A 1A 1A _____mg	×1	メイン	DIV				
②	ソリタT3号 プリンペラン10mg 5-FU(250mg)	500ml 1A _____mg	×1	メイン	DIV				
③	ソリタT3号 5-FU(250mg)	500ml _____mg	×1	メイン	DIV				
④	ナゼア(0.3mg) (冷)デカドロン(8mg) 生理食塩液	1A 1V 100ml	×1		DIV				
⑤	アドリアシン(10mg) (当日のみ) 生理食塩液	_____mg 100ml	×1		IV				
⑥	ランダ(10mg) 生理食塩液	20mg 100ml	×1	3時間でDrip	DIV				
⑦	ラシックス(20mg)	0.25A	×1	ランダ終了後	IV				
⑧	ヴィーンF	500ml	×1	100ml/H	DIV				
⑨	ヴィーンF	500ml	×1	100ml/H	DIV				

手書きで追加

使用していた処方箋
(復元)

問題

直接原因～背後要因

化学療法1日目のみ投与するアドリアシンが2日目にも投与された

2日目にもアドリアシンが準備されていた

アドリアシンも請求し病棟に取り寄せた

処方箋の記載を見誤った

1日目の処方箋が印字されている処方箋が5日間用で使われており、アドリアシンの文字の記載がある

医師は注射箋を提出すると1日毎の処方箋にと思っていた

薬剤部は時間外の打ち出しをしないシステムを医師は知らなかった

アドリアシン(当日)の不明確な記載

処方箋の記載方法が統一されていない

時間外のため薬剤部の監査・払い出しの関与がなかった

薬剤部の受付時間制限がある
医師の時間外指示

看護師AとDがダブルチェックをしたが気がつかなかった

処方箋の記載を見誤った

処方箋で、アドリアシンにも5日間の実施サイン欄があった

2日目から4日目のサイン欄を×にしなかった

1日目とそれ以降の処方内容が異なるのに同一の処方箋を2日目も使用した

印字された処方箋の字が小さく、見にくかった。

医師Bと看護師Bがダブルチェックをしたが気がつかなかった

適切な確認方法で行われていない

確認の具体的方法が決まっていない

実施時、研修医Cが処方箋と確認したが気がつかなかった

医師によるアセスメントが確認に生かされていない

班外の医師はプロトコル内容の理解が不十分

抗がん剤実施者の規定がされていない

研修医の経験では適切な確認が出来ない

研修医の実施可能範囲が明確になっていない

対策と実施計画

対策	具体策	評価の視点					実施優先順位	時期
		有効性	コスト	効果	困難性	業務増加		
注射箋の取り扱い方を統一する	時間外の注射箋は、1日1枚の注射箋に書き直す(連日、同じ注射箋を使用しない)	◎	○	◎	◎	○	1	即日
	化学療法についての注意事項を成文化する	◎	◎	◎	◎	○	4	1ヶ月
	指差し呼称	◎	◎	◎	◎	◎	1	即日
薬剤の請求方法を明確にする	時間外の薬剤請求は、投与日数分を請求する	◎	◎	◎	◎	○	3	即日
医師の責任を明確にする	実施する医師は、班のスタッフとする	◎	◎	◎	○	○	5	即日
化学療法の注意事項について見直しをする	各班の指導医・医局長と注射箋の取り扱い方、記入方法、実施の確認方法などについて話し合う	◎	◎	◎	○	○	6	1ヶ月



1) 改善したこと

- 処方箋の改善により、薬剤の確認がしやすくなった
 - ☆1日1枚の処方箋
 - ☆アドリアシン、ランダは大きく目立つように表示
- 内容を熟知したDrとの薬剤の確認をするようになった
- 薬剤の確認は指差し呼称をするようになった
- 化学療法についての意識が高まった

2) 課題

- 抗がん剤投与に関する院内の統一ルールの検討
- 抗がん剤の処方における薬剤部の関与